

料金改定の概要について（お客さま説明会お手元資料）

1. 値上げの背景、弊社の取り組み

■弊社を取り巻く環境（燃料価格と卸電力取引市場価格高騰）

- ・近年の世界的な資源価格高騰に加え、ウクライナ紛争により、燃料価格が著しく急騰しております。また、国内外の金利差を背景とした円安も加速しております。
- ・こうしたことを背景に、燃料費および卸電力取引市場からの電力調達コストが大幅に増加している状況となっております。

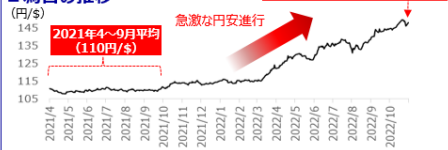
■石炭価格の推移



■卸電力取引市場（スポット市場）価格の推移



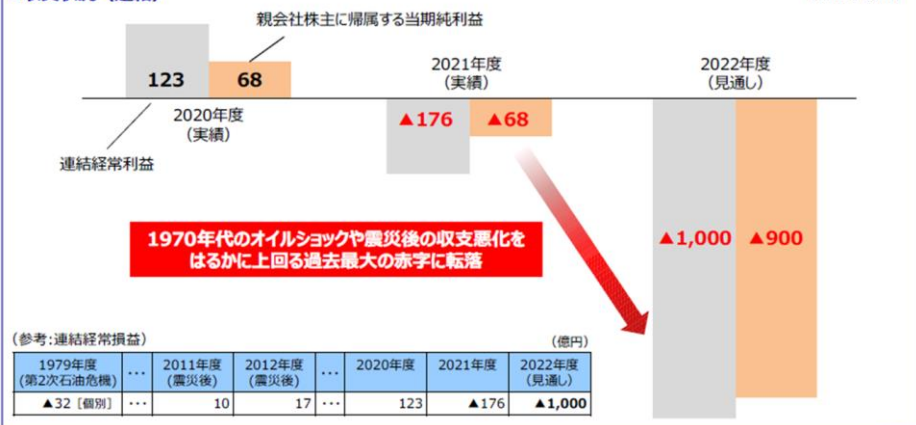
■為替の推移



■値上げの背景（2022年度収支想定）

- ・東日本大震災以降、全社を挙げて徹底した経営効率化に取り組んでおりますが、もはや企業努力で対処可能な状況ではなく、2022年度の連結経常利益は1,000億円の損失と、1970年代のオイルショックや震災直後の収支悪化をはるかに上回る過去最大の赤字となる見込みです。

■収支状況（連結）



■効率化の取組み（これまでの効率化取組みと更なる効率化）

- ・今回の値上申請にあたっては、震災後、これまで取り組んできた効率化366億円に加え、AI技術を活用した最適設備・需給運用等をはじめとする、更なる効率化132億円を反映し、総額497億円の経営効率化を織り込んでおります。

■経営効率化の取組み

項目	主な内容	金額（億円）
これまで取り組んできた効率化	- 人件費：役員報酬、給与手当の削減、厚生費の削減等 - 需給関連：経済性に優れた電源（水力・LNG火力）活用、卸電力取引所を活用した販売拡大等 - 設備投資・修繕費：競争入札等による資材調達価格の低減、設備維持費用全般の削減 - その他経費：競争入札等による資材調達価格の低減、販売活動費や研究開発費等の諸経費全般の削減	38 203 65 59 366
更なる効率化	- 人件費：役員報酬、給与手当の削減、人員の削減等 - 需給関連：AI技術を活用した最適な設備・需給運用、燃料調達コストの更なる低減等 - 設備投資・修繕費：上流購買の推進による更なる資材調達価格の低減、新技術の導入による工法等の見直し - その他経費：上流購買の推進による更なる資材調達価格の低減、緊急経営対策本部の取組みによるベース諸経費の更なる削減	23 47 35 26 132
合計		497

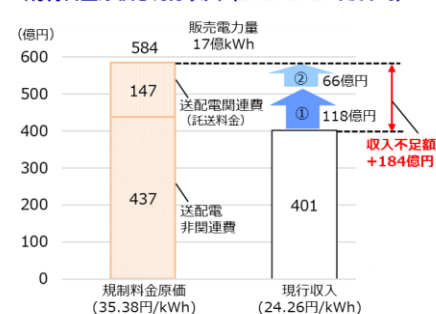
※今回申請原価には、これまで取り組んできた効率化（2021年度実績、現行原価対比、366億円）の各施策も反映し算定しております。

2. 規制料金値上げの概要

■申請原価の概要

- ・平均改定幅11.12円/kWhのうち、大宗を占める①燃料費調整額の上限超過分7.15円/kWhにつきましては、本年2月以降、燃料費調整額が上限に到達したことにより、超過分をこれまで当社が負担してまいりましたが、今回の料金改定により、規制料金のお客さまにつきましても、自由料金のお客さま同様、ご負担をお願いさせていただくものです。

■規制料金原価と現行収入（2023-2025年度平均）

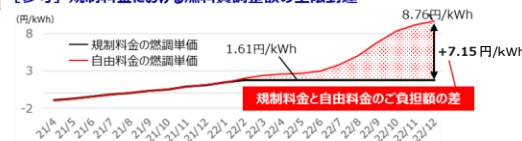


■規制料金原価・平均改定幅

内訳	改定単価
①燃料価格高騰影響（燃料費調整額の上限超過分）	7.15円/kWh
②燃料価格高騰影響（上記以外の影響）	3.97円/kWh
計（①+②）	11.12円/kWh

※消費税等相当額は含まない

【参考】規制料金における燃料費調整額の上限到達



※消費税等相当額は含まない

料金改定の概要について（お客さま説明会お手元資料）

■影響額について

・規制料金における主なご契約メニューの改定影響額は以下のとおりです。

	1 か月のご使用量	現行料金 (月額)	申請料金 (月額)	改定額（月額）（改定率）		
				合計	燃料費調整額の 上限超過分	左記以外の影響
従量電灯B 30アンペア	230kWh	6,402円	9,098円	+2,696円 〔+42%〕	+1,810円 〔+28%〕	+886円 〔+14%〕



※現行料金、申請料金ともに「消費税等相当額」および「再生可能エネルギー発電促進賦課金（申請日時時点の単価：3.45円/kWh）」を含みます。
 ※現行料金には2022年7～9月の平均燃料価格による燃料費調整額を含みます。また、従量電灯Bの現行料金には「初回振替割引額」を含みます。
 ※2023年4月1日から予定されている低圧託送料金の見直し相当分は含まずに算定しております。
 ※今後の国の審査等を踏まえ、上記の改定影響額が変動する場合がございます。また、上記はモデルケースに基づき算定した目安の金額であり、実際のご負担額は、ご使用状況や燃料費調整額、再生可能エネルギー発電促進賦課金等により変動する場合がございます。

3. 自由料金値上げの概要

■影響額について

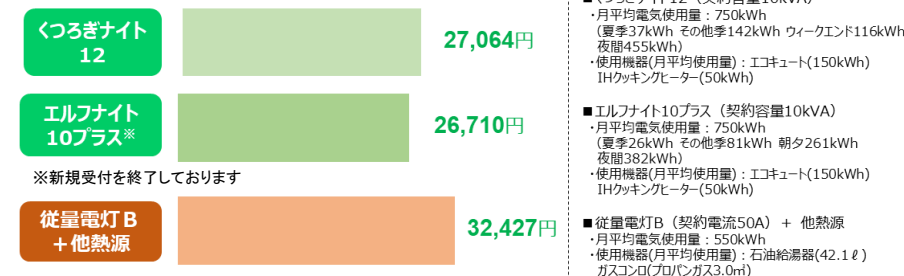
・主なご契約メニューにおける見直し影響は以下のとおりです。

	1 か月のご使用量	現行料金 (月額)	見直し後料金 (月額)	影響額（月額） 〔見直し影響〕
従量電灯ネクスト 30アンペア	350kWh	12,531円	14,021円	+1,490円 〔+12%〕
使っておくとライト 5キロボルトアンペア	550kWh	19,592円	21,650円	+2,058円 〔+11%〕
くつろぎナイト12 10キロボルトアンペア	750kWh	24,282円	27,064円	+2,782円 〔+11%〕
エルフナイト10プラス 10キロボルトアンペア 【新規受付終了済】	750kWh	24,035円	26,710円	+2,675円 〔+11%〕

（参考）オール電化住宅における他熱源とのコスト比較

・電化メニューの料金改定をお願いさせていただくことといたしましたが、以下の条件において、電化メニューは電気と他熱源を併用した場合に比べて光熱費がお安くなります。（光熱費は機器の種類やお客さまのご使用方法等によって異なります。）

■1 か月あたりの光熱費



【共通諸元】

●各料金には、消費税等相当額を含みます。●電気料金：「再生可能エネルギー発電促進賦課金（2022年5月～2023年4月の単価：3.45円/kWh）」を含めて算定●灯油料金：2022年2月～7月まで6か月間の北陸3県の平均価格（石油情報センター調べ、配達価格120円/ℓ）で算定●プロパンガス料金：2022年7月時点の北陸3県22社の料金で算定した平均値●電気機器の使用量：[エコキュート]電気温水器5.4kW(460ℓ)マイコン型の平均使用量を基にJIS3.0で算定[IHクッキングヒーター]3口の平均的使用量で算定●灯油およびプロパンガスの使用量：各熱源の発熱量とエネルギー消費効率で電気使用量を熱量換算して算定●エネルギー消費効率：[給湯]エコキュート300%(JIS3.0)、石油給湯機(潜熱回収型)95%（メーカーカタログ）で算定[調理]IHクッキングヒーター90%、ガスコンロ57%（メーカーカタログ）で算定●上記の1か月あたりの光熱費に機器購入費および工事費は含んでおりません。

4. その他の制度等

- 燃料費調整制度
- 託送料金の見直し
- 国による「電気・ガス激変緩和対策事業」

の詳しい内容については、当社ホームページ等でご確認ください。

5. お問合せ先（低圧のお客さま）

お問い合わせ

お問い合わせ専用ダイヤル
お客さまサービスセンター

0120-012433

受付時間 9:00～18:00(土・日・祝日含む)
年末年始(12/31～1/3)を除く

通話料 無料

北陸電力ホームページ
<https://www.rikuden.co.jp/>

電気料金の改定内容の詳細につきましては、当社ホームページでもご説明しております。
お客さまの影響額を試算できる電気料金影響額シミュレーションもご利用ください。